参考資料５　○○市食育推進計画ひな形（例）

○○市食育推進計画

令和○年○月

○○市

はじめに

食は生きる上での基本であり、日々の食は自然の恩恵の上に成り立っていることから、食への感謝の気持ちを深めることは大切です。また、私たちにとって、食事は、家族や友人などとのコミュニケーションを通じて、健康な食生活の実現とともに、生きる喜びや楽しみをも作りあげてくれるものです。

　○○市は、豊かな自然環境を生かし、新鮮でおいしい食材や地域に根付いた食文化があります。○○市では、食を通じた健康づくりの取組をはじめ、親子対象の農作業体験や郷土料理の料理教室等、関係者が連携し、様々な食育の取組が広がってきています。

　これより、○○市では、このような食育の取組をより一層効果的に推進するため、この度「○○市食育推進計画」を策定し、地域一体となった食育の取組を進めることといたしました。

　食育は、家庭はもとより、学校や地域など生活の様々な場面において、全ての皆さんに参加していただき、実践していただくことが重要であることから、計画の実現に向けて、○○市の皆さんと一緒に食育の推進に取り組んでまいりますので、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

　令和○年○月

○○市長　○○○○

目　　次

第１章　○○市食育推進計画の基本的な考え方　・・・・・・・・・・・

１　計画策定の趣旨

２　計画の位置付け

３　計画の期間

４　計画の策定体制

第２章　食をめぐる現状と課題　・・・・・・・・・・・・・・・・・・

１　人口推移等

２　健康、食生活

３　食料生産と流通、食文化

４　食に関するボランティアの状況

第３章　施策の展開　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

　１　基本理念

　２　基本方針

　３　基本施策

　４　施策の展開

第４章　計画の目標　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

　１　目標一覧

　２　推進体制・進行管理

第１章　○○市食育推進計画の基本的な考え方

１　計画策定の趣旨

食は命の源であり、私たち人間が生きていくために欠かせないものです。また、健全な食生活を日々実践し、おいしく楽しく食べることは、生きる喜びや楽しみであり、健康で心豊かな暮らしの実現に大きく寄与します。食は、社会と密接に関係しており、今般の新型コロナウイルス感染症の流行により、新しい生活様式・新たな日常への対応が求められる等、社会情勢は大きく変化しています。その他、食への関心が薄れるとともに、生活習慣病の増加、子供や若い世代の朝食欠食、共食の機会の減少等の課題や、食料の安定供給の確保、食べ物と生産現場のつながり、食文化の継承等、食に関する課題が存在します。

このような食をめぐる環境の変化に伴い、国は食育に関する施策を総合的かつ計画的に進めるため、平成17年に「食育基本法」を制定し、令和３年に「第４次食育推進基本計画」を作成しました。また、京都府では、令和３年に「第４次京都府食育推進基本計画」を作成し、京都府内の食育を総合的に進めることとしています。

○○市においても、他の地域と同様に食生活の変化に伴う様々な課題が見られますが、○○市内には新鮮でおいしい食材や、その食材を生かした郷土料理や特色ある食文化が育まれるとともに、生産地が近く、消費者と生産者の顔が見える関係を築きやすい等、食育を行う上で恵まれた環境にあります。このような背景を踏まえ、○○市においても国や京都府等と連携を行い、より効果的な食育の取組を推進するため、「○○市食育推進計画」を策定します。

２　計画の位置付け

本計画は、食育基本法第18条に規定する市町村食育推進計画に位置付けられるものです。また、「○○市総合計画」を上位計画とし、「○○市計画」など、関連する各種計画と連動を図り、地域の特性に応じた食育の取組が推進されるための計画とします。

食育推進基本計画（国）

※食育基本法第16条

○○市食育推進計画

（市町村食育推進計画）

京都府食育推進計画

（都道府県食育推進計画）

※食育基本法第18条

※食育基本法第17条

３　計画の期間

本計画の期間は、令和○年度から令和○年度までの５年間とします。また、関係法令の改正や本計画の上位計画の見直しと合わせ、必要に応じて見直しを行います。

４　計画の策定体制

　計画の策定に当たっては、「○○市食育推進本部」において情報収集及び課題分析、取組の方向性を検討するとともに、「○○市食育推進協議会」の設置や「パブリックコメント」の実施により、幅広く住民や関係者の意見を聴取し、反映に努めました。

第２章　食をめぐる現状と課題

１　人口推移等

（１）人口構造

　　　総人口は、約○人で、平成○年から減少傾向となっています。人口構造は、年少人口（０～14歳）、生産年齢人口（15～64歳）が減少している一方、老年人口（65歳以上）は年々増加しており、前期高齢者（65～74歳）は○%、後期高齢者（75歳以上）は○%、高齢化率○%で京都府○%を上回っています。

出典例「国勢調査」

参考資料「京都府統計なび」

（２）人口動態

出生数は、約○人で、平成○年から令和○年の５年間で約○人減少しており、合計特殊出生率は○となっています。死亡数の推移は、死亡数が出生数を上回り、自然動態は減少傾向です。全国、京都府と比較すると、出生率は低く、死亡率は高くなっています。

出典例「人口動態統計」

参考資料「京都府統計なび」

２　健康・食生活

（１）平均寿命と健康寿命

　　　平均寿命は男性○歳、女性○歳、健康寿命は男性○歳、女性○歳となっており、男性、女性ともに全国、京都府より長くなっています。

出典例「国保データベース（KDB）」

参考資料「健康長寿・データヘルス推進プロジェクト報告書」

（２）疾病状況

死因別死亡割合では、「悪性新生物」が○%と最も高く、次いで「心疾患」が○%、「脳血管疾患」が○%となっており、京都府と同様の傾向が見られます。

標準化死亡比(SMR)では、全国（100）と比較して、男性は腎不全○、心不全○、肝がん○、肺がん○、女性は心不全○で死因が高くなっています。平成○年と比較し○が増加し、全国と比較しても明らかに増加しています。

特定健診受診者のうち、メタボリックシンドローム該当者の割合は年々増加傾向にあるものの京都府平均より低く、予備群の男性の割合は微増しており京都府平均を上回っています。

出典例「死因別死亡割合：人口動態統計」

「標準化死亡比(SMR)：人口動態統計」

「メタボリックシンドローム該当者・予備群：特定健診・特定保健指導法定報告」

参考資料「健康長寿・データヘルス推進プロジェクト報告書」

　　　　「政府統計の総合窓口（e-Stat）」「京都府統計なび」

（３）肥満とやせ

　　肥満の割合は、男性40歳代で○%と高く、平成○年と比較し増加しています。やせの割合は、女性20歳代で○%と高くなっています。小中学生では、小学生の男子○%、女子○%が肥満傾向（肥満度20%以上）であり、中学生の女子では○%がやせ傾向（肥満度-20%以下）となっています。低栄養傾向（BMI20以下）の高齢者は、○%で前期高齢者から後期高齢者にかけて増加傾向にあります。

出典例「市民の食育に関するアンケート調査結果、健診結果等」

（４）健康に配慮した食生活

朝食の摂取状況は、朝食をほとんど毎日食べる割合は、男女ともに小中学生と年齢が上がるにつれて低下し、特に男性の20歳代○%、30歳代○%と低くなっています。

主食・主菜・副菜をそろえた食事を１日２回以上とる割合は、ほとんど毎日が○%で半数以下となっています。

野菜の摂取状況（野菜をたっぷり使った料理を１日２回以上食べる割合）は、20代、30代は少なく、年齢が上がるにつれて割合は高くなっています。

出典例「市民の食育に関するアンケート調査結果等」

３　食料生産と流通、食文化

（１）農業従事者の状況

　　　農業就業人口は、直近10年で○割減少していますが、新規就農、就業者は令和○年は○名と増加しています。農家の高齢化もあるなか、農業、農村の維持、発展に向けて、担い手の確保、育成や農業生産性の向上等が必要です。

参考資料「わがマチ・わがムラ　グラフと統計でみる農林水産業」（農林水産省）

（２）農業産出額

令和○年○円で、内訳は米○%、野菜○%、肉用牛○%となっています。

参考資料「わがマチ・わがムラ　グラフと統計でみる農林水産業」（農林水産省）

（３）農産物生産面積、海面漁業漁獲量

　　京都府と比較して水稲、野菜の生産割合が高く、○○や○○が多い特徴があります。○○は増加傾向で、平成○年から○割増加しています。漁業生産量は、令和○年○トンで、構成比は海面漁業○%、内水面漁業○％、海面養殖業○%、内水面養殖業○％となっています。魚種別漁獲量は、○類が○%を占めています。

参考資料「わがマチ・わがムラ　グラフと統計でみる農林水産業」（農林水産省）

（４）直売所

○○市に○カ所あり、地域の農林水産物の利用促進や生産者と消費者の交流の場となっています。

出典例「○○市農林振興課調べ」

（５）学校給食等

　　　学校給食における地場産物の使用割合は〇%となっています。また、毎月１９日の食育の日には、地場産物を使用した献立を提供しています。

出典例「○○市教育委員会調べ」

（６）地域の農林水産物の利用の取組を通じた食育の推進

農林漁業体験に参加したことのある世帯の割合は○%となっています。

出典例「○○市農林振興課調べ」

（７）食文化の伝承

食文化（郷土料理や行事食）を知っている割合は〇%であり、若い世代ほど認知度が低い傾向があります。和食の料理を使う際に使用するだしについて、市販の即席だしを使う割合は、昆布、かつお、煮干し等からだしをとる割合と比較して〇%と高い結果となりました。

出典例「市民の食育に関するアンケート調査結果等」

４　食に関するボランティアの状況

食育ボランティア団体である〇〇市食生活改善推進員連絡協議会は会員〇名で、望ましい食生活の実践や食文化の伝承等の活動を地域で展開しています。

その他、〇〇（農業ボランティア団体）等、地域で様々な団体が活動されています。

出典例「○○市保健課、農林振興課調べ」

第３章　施策の展開

※各市町村の状況に応じて記載して下さい

１　基本理念

「　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　」

　　住民一人ひとりが、食への関心を高め、食を通して豊かな人間形成や地域づくりを行い、全ての住民が生涯にわたり健康で心豊かな生活を送れる社会の実現を目指します。

２　基本方針

　　多様な関係者との連携のもと、生涯を通じた心身の健康を支える食育を推進するとともに、新しい生活様式・新たな日常に対応した取組を推進します。

３　基本施策

　　〇〇市では、４つの基本施策を基に地域住民や関係者が連携して取組を推進します。

（１）生涯にわたり健康な心身を育む食育の推進

　　朝食の欠食や、脂質の過剰摂取や野菜不足等の栄養の偏りは、生活習慣病の危険因子と言われています。食は、健康な身体と心を育む基本であり、乳幼児期から健全な食習慣を実践することは生涯にわたる健康づくりの基盤となります。

　　〇〇市は、全ライフステージにおいて住民一人ひとりが食の正しい知識と選ぶ力を身に着け、実践につながる取組を推進します。また、関係機関の連携を通した幅広い活動の展開に努め、生活習慣病の発症及び重症化予防も視野に入れ取り組みます。

（２）地産地消や食文化継承を通じた食育の推進

〇〇市は、豊かな自然に恵まれ、新鮮でおいしい食材や、その食材を生かした郷土料理や特色ある食文化が育まれるとともに、生産地が近く、消費者と生産者の顔が見える関係を築きやすい特徴を持った地域です。

〇〇市は、生産者と消費者との交流を促進し、両者の相互理解を深める中で地産地消を推進します。各種農作業体験や保育所・学校給食等での地場産物や郷土料理の提供を通して、子どもの頃から地域の農林水産業や地産地消の重要性、地域の食文化、食への感謝の気持ちを学ぶ機会を提供します。

（３）次世代を担う子供を育む食育の推進

食育は、食育は全ライフステージにおいて重要なものですが、特に子どもたちに対する食育は、心身の成長及び人格形成に大きな影響を及ぼし、生涯にわたって健全な心と身体を培い豊かな人間性を育む基礎となるものとして重要です。

〇○市においても、学校教育活動の中で食に関する指導などを進めるとともに、家庭や地域、関係機関と連携し、健全な食生活を実践できる能力が培われるよう取組を行います。

（４）新しい生活様式・新たな日常に対応した食育の推進

新型コロナウイルス感染症の世界な流行を受け、感染拡大予防の観点を日常生活に定着させることが求められています。

〇○市では、新たな日常の中でも継続して食育を推進するために、ICTツールを効果的に活用するとともに、改めて食の大切さが再認識されるよう情報発信を行います。

４　施策の展開

（１）家庭における食育の推進

ア　妊産婦や乳幼児への食の指導の充実

　　　・妊婦とその夫を対象とした講座「プレパパママ食育講座」の開催

・乳幼児健診や離乳食教室での栄養相談・指導

・子どもの歯の相談における食の指導

・子育てサークルにおける健康教育、栄養相談

イ　子どもへの基本的な生活習慣形成への取組

　　　・親子料理教室、食育セミナーの開催

・家庭、学校、地域等が連携した、朝食摂取の取組

・学校、保育所、幼稚園等における体系的、継続的な食の指導

・市内小中学校等への啓発リーフレットの配布

ウ　青・壮年期への生活習慣病予防のための取組

・健診結果報告会による食の指導

・生活習慣病発症予防・重症化予防のための栄養相談・教室の開催

・野菜を食べようキャンペーンの開催

・成人お祝い会記念冊子による食の啓発

・市ホームページを通じた啓発

エ　高齢者への低栄養予防の取組

・低栄養リスク者を対象とした低栄養予防のための食や運動、お口の教室の開催

・低栄養予防に関するリーフレットや市ホームページを通じた啓発

・介護予防「栄養改善」の取組

（２）学校、保育所等における食育の推進

ア　学校における食育の推進

　　　・学校給食関係者、教職員対象の研修の実施等、食に関する指導体制の充実

　　　・食に関する指導に係る全体計画の作成、共有

　　　・地域と連携した農作業体験、調理実習の実施

　　　・地場産物や食文化への理解が深まる、学校給食の提供と指導の充実

　　　・肥満ややせ、食物アレルギー等の指導を通した、望ましい食習慣形成への指導

・給食だより、学校給食試食会等を通じた家庭や地域の連携

・ＰＴＡ研修、 ＰＴＡ広報等を通した望ましい食習慣の啓発

イ　保育所等における食育の推進

・給食担当職員等を対象とした研修の実施

・関係者連携による食育の推進

・乳幼児の成長・発達に応じた食事の提供、食育の実施

・食事提供の場や菜園活動を通した、食べ物への興味や関心を高める取組

・給食だより、給食参観、試食会、食事の実物展示を通じた保護者への啓発

　　　・保育所や家庭、地域が連携した食育の推進

　　　・保育所や地域子育て支援センターにおける支援の実施

（３）地域における食育の推進

ア　健康寿命延伸につながる食育の取組

・健診結果報告会による食の指導（再掲）

・生活習慣病発症予防・重症化予防のための栄養相談・教室の開催（再掲）

・健康づくりポイント事業における食の取組の充実

・食品関連事業者との包括連携協定による食育の取組

・外食の栄養成分表示等の促進

イ　職場等における食育の推進

　　　・食育関連情報の提供

　　　・健診結果に基づく食生活の管理

ウ　〇〇市食生活改善推進員連絡協議会による実践

　　　・食生活改善推進員養成講座の定期的な開催

　　　・食生活改善推進員対象の研修会の開催

　　　・食生活改善推進員への伝達講習及び地域での活動支援

　　　・食生活改善推進による、地域の子供を対象とした親子料理教室や郷土料理の教室、高齢者を対象とした低栄養予防の料理教室の開催

（４）生産者と消費者の交流促進、食文化の普及・継承

ア　地産地消による地元産食材の利用促進

　　　・直売所、各種イベントにおける地元産食材、郷土料理、行事食のPRや販売

　　・産地見学会の開催

　　・食農ボランティアによる農作業体験の実施

　　・地曳網体験等、農林漁業体験の実施

　　・保育所、学校給食における地場産物の提供

　　・食品ロス削減に関する取組の推進

　　・パンフレットやホームページ等による情報発信

イ　食文化の普及、継承に向けた食育の推進

　　　・直売所、各種イベントにおける地元産食材、郷土料理、行事食のPRや販売（再掲）

　　　・保育所、学校給食における郷土料理や行事食の提供

　　　・食生活改善推進員等、食育ボランティアによる郷土料理、行事食の啓発

　　　・パンフレットやホームページ等による情報発信

（５）食育推進運動の展開

ア　毎年６月「食育月間」、毎月１９日「食育の日」における取組の充実

　　・毎年６月「食育月間」における、関係団体が連携した食のイベントの実施

・毎月１９日「食育の日」に合わせた、食の情報発信

　　・保育所、学校給食における重点的な食の取組

イ　地域が一体となった食育の推進、協力体制の確立

　・食育キャッチフレーズの設定

　・食育ロゴマークの活用

　　・広報紙やホームページ等による情報発信、食育活動の紹介

第４章　計画の目標

１　目標一覧

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 項　目 | | 現状値  （令和〇年度） | 目標値  （令和〇年度） | 把握方法 |
| １ | 食育に関心を持っている市民の割合 | 〇% | 〇% | ○○調査 |
| ２ | 朝食を毎日食べる小中学生の割合 | 〇% | 〇% | ○○調査 |
| ３ | 朝食を欠食する20代、30代の割合 | 〇% | 〇% | ○○調査 |
| ４ | 主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を  １日２回以上ほぼ毎日食べる者の割合 | 〇% | 〇% | ○○調査 |
| ５ | 野菜摂取量の平均値 | ○g | 350g以上 | ○○調査 |
| ６ | 食塩摂取量の平均値 | ○g | 8g以下 | ○○調査 |
| ７ | 肥満者の割合 | 〇% | 〇% | ○○調査 |
| ８ | 給食担当者研修会の開催 | 〇回/年 | 〇回/年 | ○○課調べ |
| ９ | 学校給食における地場産物を使用する割合 | 〇% | 充実 | ○○調査 |
| 10 | 学校給食における郷土料理を提供する回数 | 〇回/年 | 充実 | ○○課調べ |
| 11 | 〇〇市食生活改善推進員連絡協議会養成  講座の回数 | ○回/年 | ○回/年 | ○○課調べ |
| 12 | 農林漁業体験を経験した市民の割合 | 〇% | 〇% | ○○課調べ |
| 13 | 郷土料理を継承、伝承する市民の割合 | 〇% | 増加 | ○○調査 |
| 14 | SNS等による情報発信の回数 | 〇回/年 | 〇回/年 | ○○課調べ |
| … | … | … | … | … |

２　推進体制、進行管理

（１）食育推進本部の設置、運営

　　・食育の推進を総合的かつ計画的に推進するため、庁内に〇〇を本部長として関係部局で構成する「〇〇市食育推進本部」を設置します。

　　・推進本部は、食育の推進に関する基本的な事項や関係事務局における具体的な施策に関する推進方法、目標等についての意思決定を行うとともに、毎年開催し、計画の進捗確認、評価を行います。

（２）食育推進協議会の設置

　　・〇〇市の食育に関する施策の策定や実施に関し、意見・要望等を把握し、行政施策に反映させることを目的に、食育に関する知識や経験を持つ方で構成する「〇〇市食育推進協議会」を設置します。

【関連通知】

1. 市町村食育推進計画の作成・見直しの支援について　市町村食育推進計画の作成・見直しに当たっての留意事項

（平成30年９月18日付け30消安第3138号　農林水産省大臣官房参事官（兼消費・安全局）・消費・安全局消費者行政・食育課長連名通知）

２）地域資源を活用した農林漁業者等による新事業の創出等及び地域の農林水産物の利用促関する法律の運用について

　　（平成23年3月29日付け22総合第1741号、22生産第10759号、22農振第2106号、国都開第10号及び一部改正平成23年8月31日付け23生産第4304号連名通知）

【参考資料】

1. 地域の特性を生かした市町村食育推進計画づくりのすすめ

（平成20年５月　内閣府食育推進室）

1. つながる、ひろがる食育の環　～継続的・効果的な食育推進のために～

食育推進に関する市町村の実践事例調査報告書

　　（平成25年３月　内閣府食育推進室）

３）食育推進計画調査報告書

　　（平成29年３月　農林水産省）

４）沖縄県市町村食育推進計画作成の手引き

　　（平成30年11月　沖縄県保健医療部健康長寿課）

５）北海道市町村食育推進計画作成の手引き

　　（平成29年５月　北海道農政部食の安全推進局食品政策課）